

# HSMを利用したデータベース暗号化

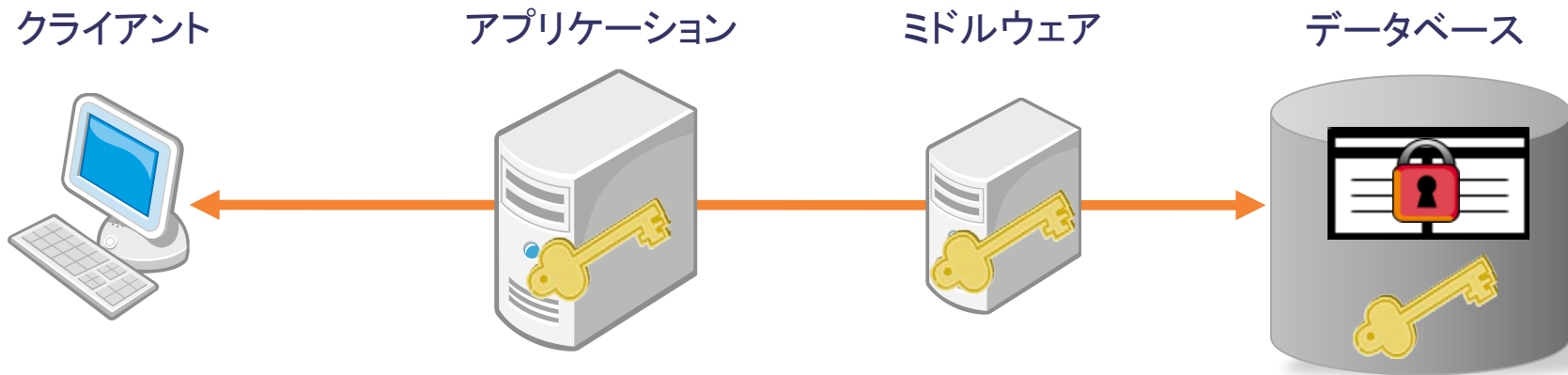
タレスジャパン株式会社  
2011年7月26日 JCDSCベンダー部会

[www.thalesgroup.com/japan](http://www.thalesgroup.com/japan)



THALES

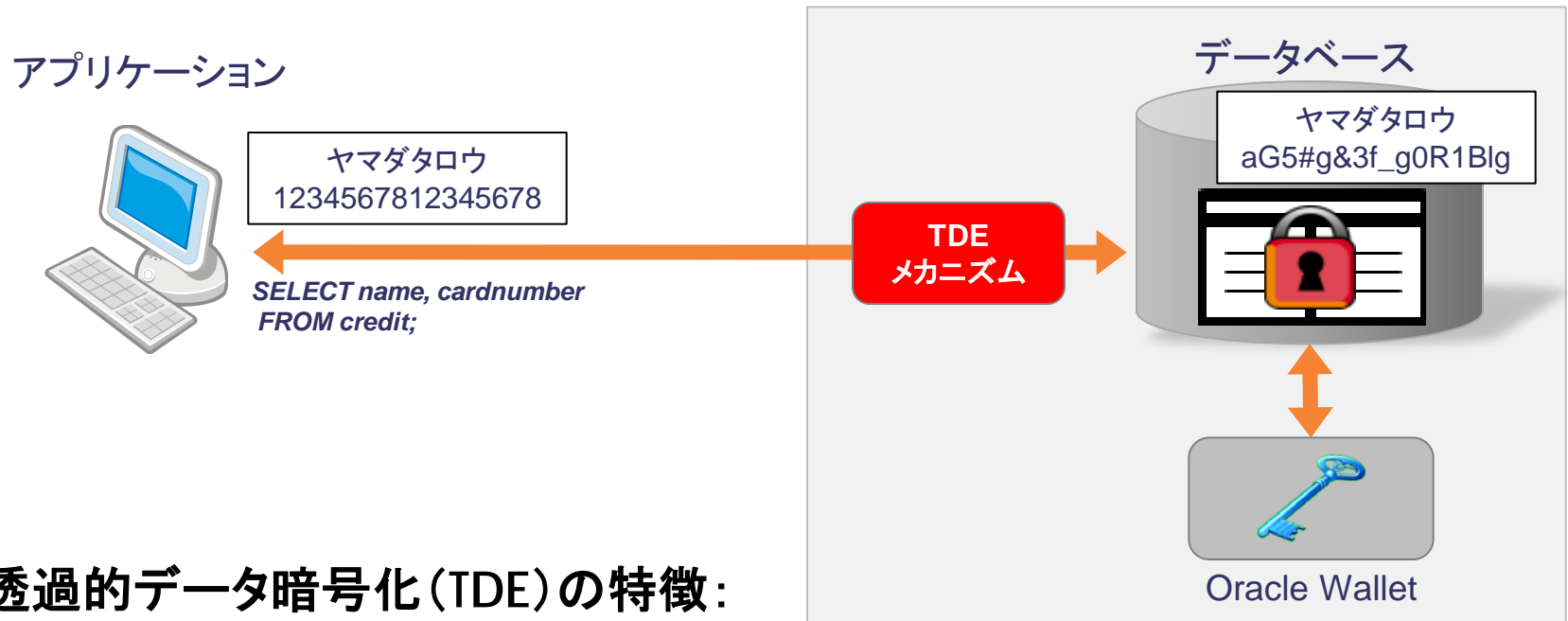
## ◆ 暗号化を実施するポイントによって数種類の方式



## ◆ データベース暗号化に対する懸念

- 暗号処理のオーバーヘッドでパフォーマンスの低下が心配...
- アプリケーションの改修が必要...
- システムの構成が複雑になって運用の負荷が増大...
- 暗号化したデータを戻せなくなったら...

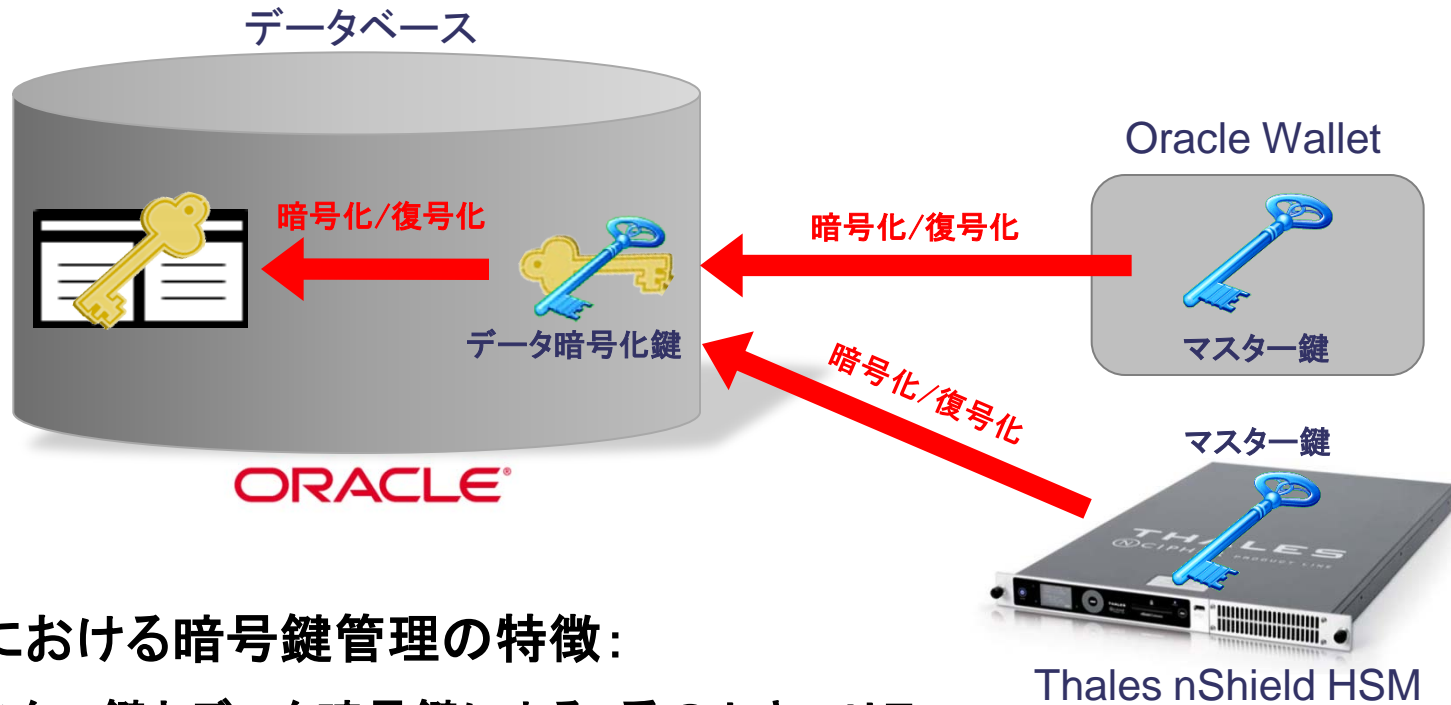
## ◆ データベースの透過的データ暗号化機能 (TDE) は、これらの懸念に対する有力なソリューション



ORACLE®

### 透過的データ暗号化 (TDE) の特徴:

- ◆ DBMSネイティブの暗号化機能
- ◆ アプリケーションからは透過的に、データの暗号化/復号化が行われる
  - 既存のアプリケーション (SQL) を改修する必要はない
- ◆ AES(128/192/256bit) に対応
- ◆ Oracle Wallet を利用した鍵管理メカニズム



### TDE における暗号鍵管理の特徴:

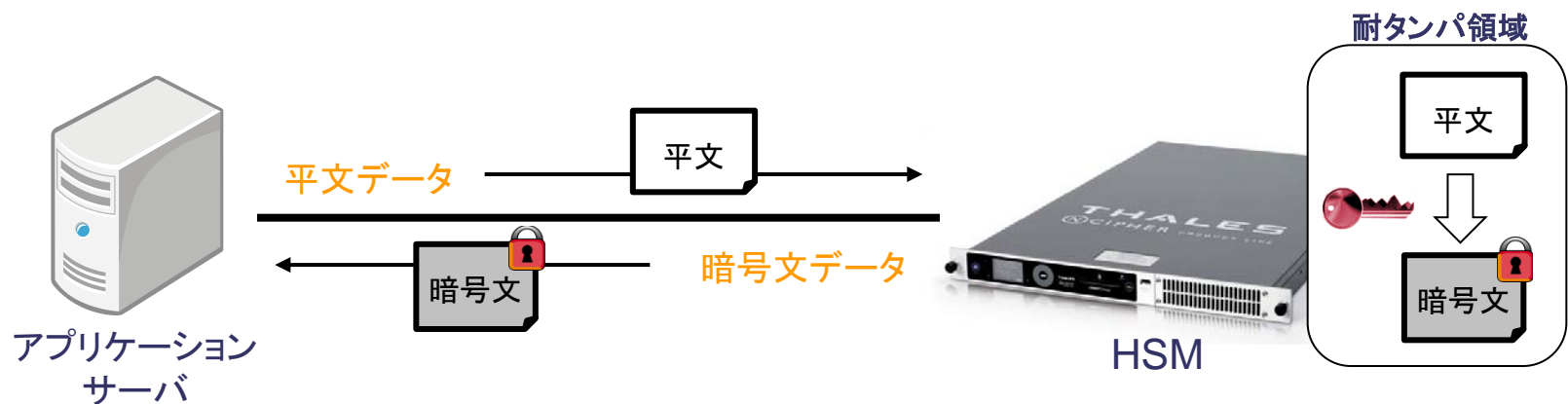
- ◆ マスター鍵とデータ暗号鍵による2重のセキュリティ
  - データベース内のデータを「データ暗号化鍵」で暗号化
  - データ暗号化鍵を「マスター鍵」で暗号化
- ◆ Oracle Walletはデータベースサーバ上の“ファイル”であり、パスワードによる保護のみ
- ◆ 効果的な暗号鍵管理のために、安全なマスター鍵の格納庫としてHSMを標準サポート

暗号鍵を保護する専用のハードウェア

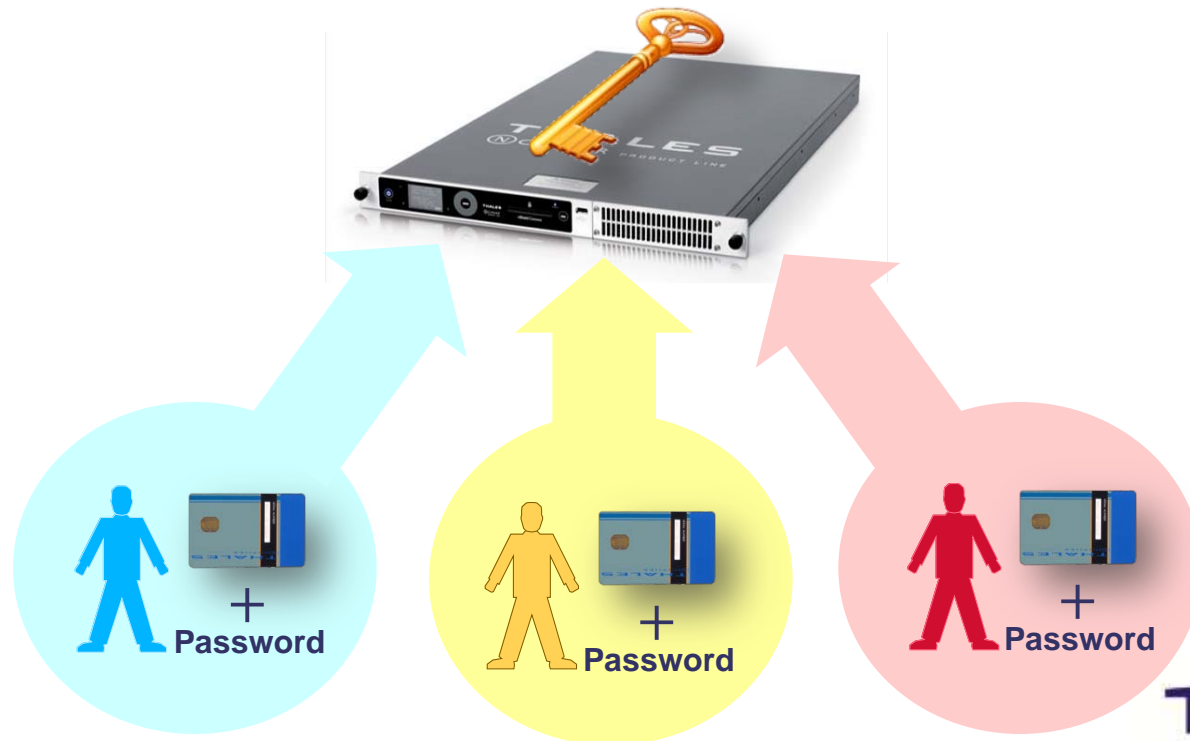
暗号処理をHSM内部で安全かつ高速に実行

強力な暗号鍵へのアクセスコントロール(2要素認証)

物理的な不正アクセスから暗号鍵を防御(耐タンパ機能)



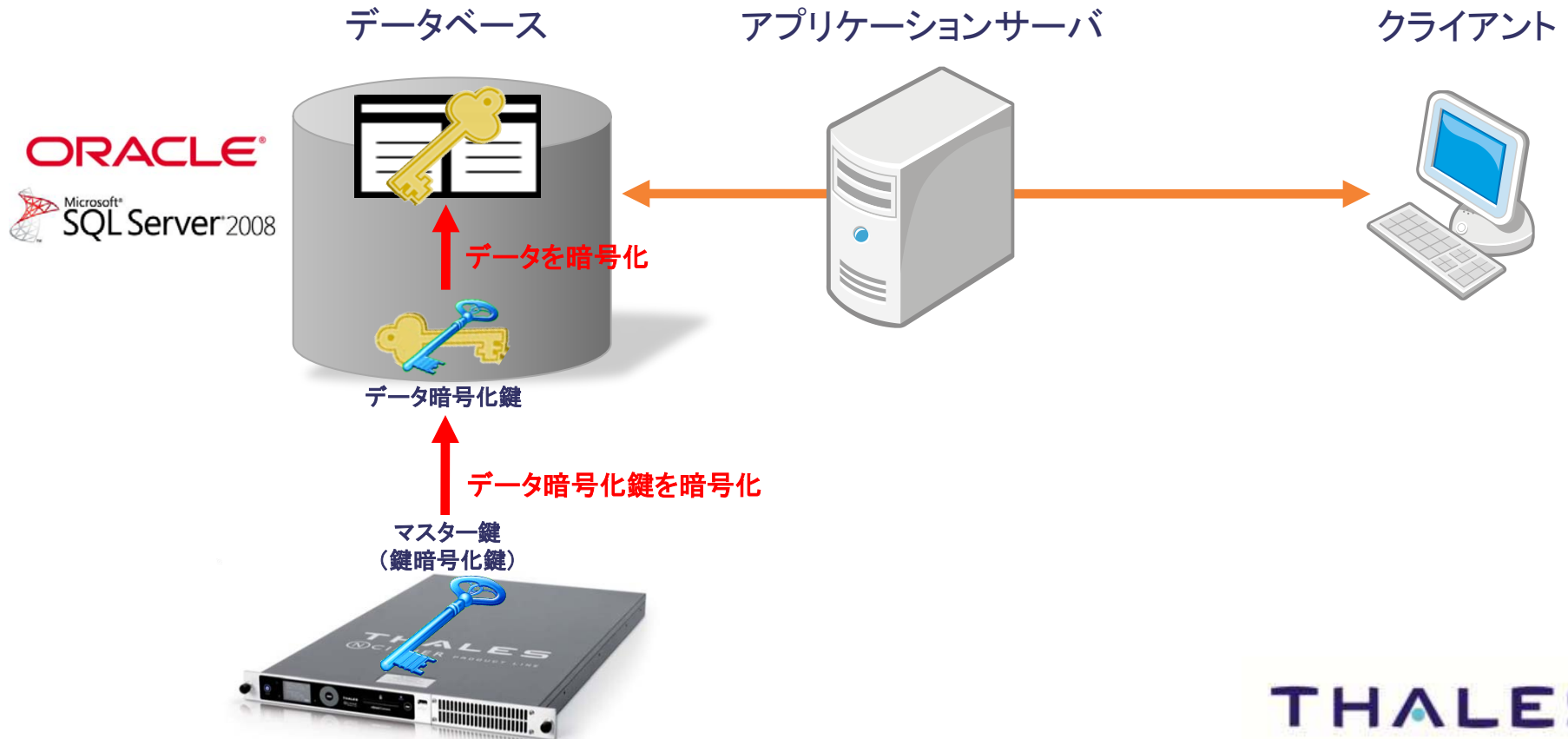
- ◆ 3.5 暗号化キーを開示や誤使用から保護する
  - 3.5.1 暗号化キーへのアクセスを、必要最小限の管理者に制限する
- ◆ 3.6 暗号化キーの管理プロセスおよび手順を文書化し実装する
  - 3.6.6 暗号化キーの知識分割と二重管理
  - 3.6.7 暗号化キーの不正置換の防止



### ◆ 3.5 暗号化キーを開示や誤使用から保護する

#### ○ 3.5.2 暗号化キーの保存場所と形式を最小限にし、安全に保存する

- 3.5.2.a キーが暗号化された形式で保存され、キー暗号化キーがデータ暗号化キーとは別個に保存されていること



### ◆ 3.6 暗号化キーの管理プロセスおよび手順を文書化し実装する

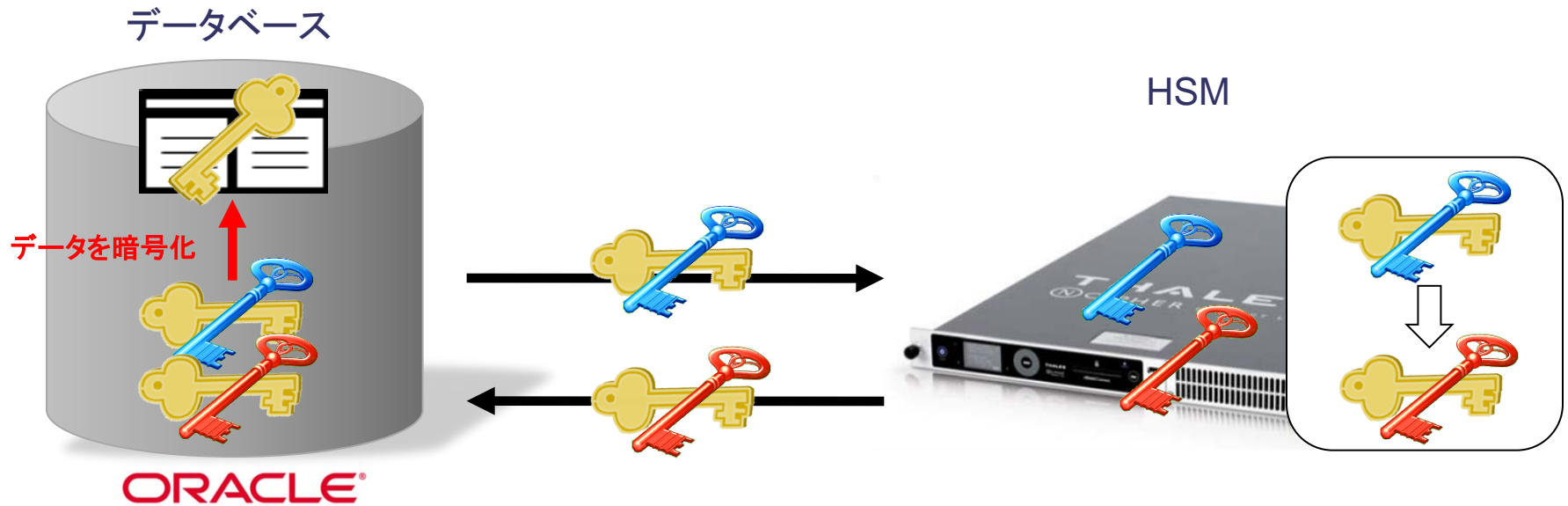
- 3.6.1 強力な暗号化キーの生成
- 3.6.2 安全な暗号化キーの配布
- 3.6.3 安全な暗号化キーの保存



THALES



- ◆ 3.6 暗号化キーの管理プロセスおよび手順を文書化し実装する
  - 3.6.4 定期的な暗号化キーの変更



```
SQL> ALTER SYSTEM SET ENCRYPTION KEY ...
```

## ◆ データベースとのシームレスな連携

- データベースのネイティブな暗号化機能に、強力な暗号鍵の保護を追加
- DBMSのオプション機能として、業界標準のPKCS#11 API経由で連携

## ◆ 保証されたセキュリティ

- FIPS140-2 Level3、Common Criteria EAL4+ 認証を取得
- ハードウェアベースの鍵の保護
- 高度な役割分割、強力なユーザー認証

## ◆ コンプライアンス要件への準拠を支援

- PCIDSS 要件3の暗号鍵管理要件を効果的に実現

- 製品情報

<http://www.thales-esecurity.com/japan>

- 製品購入に関するお問い合わせ:

タレスジャパン株式会社

代表: 03-5785-1975

[Jpnsales@thales-esecurity.com](mailto:Jpnsales@thales-esecurity.com)

